

694

特254
567

堺商工會議所商工相談所資料
(11)

北支を視たまゝ

堺商工會議所
商工相談所



始



特 254
567



北支を視たまへ

- ◇北支産業状態
- ◇北支と堺貿易

堺商工會議所庶務課長

高 澤 正 直



は し が き

盧溝橋の曉を破つた砲聲に端を發した日支事變は、八ヶ月を経て北中支皇軍將兵各位の異常なる奮戦努力により東洋平和の爲め戦果を收めたばかりでなく、その後の經營に對しても努力が續けられ、日滿支を一體とする經濟建設に著々成果を齎し支那に對する再認識の聲が熾烈となり、八方塞がりの本邦經濟界に急に曙光を齎した爲め、朝野を擧げて支那進出の勢が盛となり、當市に於ても事變前より相當支那進出が活潑となつてゐたが、事變後の動きは亦一段と拍車を掛ける状態となつた爲め、本市經濟界の參謀本部とも稱すべき當所としても、此の状態を知らずしてはよき相



談相手となることが出ぬ——と云け役員會の御心より不肖三週間に亘り北支産業視察の出張を命ぜられたのであります。事變前、北支と我が堺市との關係は貿易上相當巨額のものがあつたのであります。即ち自轉車の八百萬圓を筆頭として、地下足袋、金屬製品、化學藥品等がありました。事變に影響せられて自轉車の輸出が止まり業者、大困憊を極め、本所に於ても之が軍需品製造への轉向を幾度斡旋したことは御承知の通りであります。事變後有望市場として、我邦品の市場として四億の民を有する支那が明裝してクロイゾアツプされた。實に地理的に見ても最も惠まれた市場であることは喋々を要しませぬ。

私は只今から駈足を以て見て來たゞけの支那即ち私の貧弱なる眼に映じた支那のアウトラインだけを簡単に御報告申し上げたいと思ひます。

支那再認識

嘗つて米國大統領が自動車王フォードに向つて

「將來世界を支配するものは誰か。」

と質問した。フォードは紙片に「四億」と云ふ文字を書いて見せた。

これは支那四億の民を支配するものが今後の世界をリードするであらうことを意味するものだ——と云ふことを何かの本で讀んだことを記憶してゐます。

支那經濟資源に關して從來餘りに冷淡であつた我が邦では、今回の事變により急に支那再認識の熱度が増はつて來ましたが、事實支那開發はその領土に比例してなぞの資源を有してゐるやうであります。

此處で北支に於て支那の有力な人が言つてゐた支那民族の通用性を、最も雄辯に物語る一例を申し上げて、如何に

日本の經濟開發の必要なるかに就て御參考としておきたいと思ひます。

「ロシアは思想的に支那を蠶食せんとしてをり、英國は金力を以て支那人を丸め込まんとして居る。」と喝破してゐる。暴戻無智なる支那軍閥の反省を促すには斷の一字に俟つ外はありませぬが、其の後に來るものは産業經濟のよき開發により、四億民衆の安居樂業の天地を築き上げることが本事變の使命であり、且つ目下新政府の中心的行政方針のやうで、此處に於て東亞永遠の平和と繁榮を齎すものとして欣快に堪えませぬ。

平生北支最高顧問の視察談を見ましても

「先づ民衆の購買力を養へ——」

と喝破してゐられます。民衆の購買力を養ふと云ふことは、疲弊してゐる農民に安心して家業に就かしめ資源はドン／＼開發せよ——然らば思想も亦善導され、匪賊の數も段々少くなる。謂ひ變れば

「食へるやうにすることが先決だ——」

と云ふことで北京に於ける有力な人々の間に、この言葉は好感をもたれ「流石は平生さんだ」と感心させてゐました。故に日本軍の宣撫班の活動と併行し着々効を收めてゐるのであります。

廻つた道程

結論を先きに申し上げましたが、私の視察の大体のコースを拙い詰んで申し上げます。

三月五日正午神戸出帆の長安丸に乗船、翌六日は内海未曾有の濃霧で三田尻沖に空しく一日を停泊、七日早朝門司入港、完全に一日を遅れました。此の日前日の好晴に引き換へ、風強く海波白馬を立て、荒るゝ悪い日で午後二時出帆玄海灘に到れば、吃水の浅い長安丸は、波浪に揉まれ船の動揺烈しく、船客何れも船酔を致してゐました。三月十日

早朝塘沽沖に停船此處から小形船に乗り換へて午前十一時過ぎ塘沽入港午後二時汽車で天津着は午後三時半でした。
天津着と共に驛頭に府立貿易館天津出張所主任藤氏、堺市金物商辻經雄商店の林氏、瀋寺の山川郁夫氏、鏡高組の川村氏外の出迎へを受けて常磐ホテルに入りました。直ちに貿易館主任藤氏と北支全コースの打合せを行ひ、天津市場に對する話を承り事變前後邦人の産業經營に對する實情と商況の研究を行ひました。

▲天津に於ける産業調査訪問先

大阪府立貿易館天津分館

大阪市貿易調査所

商工省 天津貿易幹旋所

天津商工會議所

三昌洋行

中裕洋行

中原公司

横濱商行

▲十二日 午後三時四十五分の列車にて北京に向ひ、午後七時過ぎ北京着六國館店宿泊。

▲十三日 午前中軍司令部を訪問、高級參謀に面會して事變の慰問を爲し、午後三時過ぎより市内見物。

▲商業關係の調査

華北實業公司

信義洋行

▲十四日 午前七時北京發、石家莊へ向ひ夕刻七時着。

▲十五日 二瓶主計少將訪問、慰問申上げ、北支開發の有力なる御高見を拜聽し、大興紗廠堀井氏を訪問、石家莊方面商況を調査。

▲十六日 午後一時石家莊發、夕刻保定着、松屋旅館一泊。

▲十七日 保定の商況視察の後午後一時發、北京へ歸り都ホテル投宿。

▲十八日 午前七時北京發、張家口に向ひ午後三時半着、鐘紡公大毛絨廠土谷氏訪問。

大阪市張家口貿易調査所長岩下氏訪問、

蒙疆聯合委員會、産業監察官近藤、堤兩氏につき詳細調査。

▲十九日 張家口商況視察、蒙古人の物々交換情況並に絨氈製造、及物製造、硝子、自轉車、金物、織布、奥地行き物品、其他調査。

▲二十日 北京歸着、信義洋行にて北京の商況を詳細承り市場調査。

▲二十一日 北京發、錦縣へ。

▲二十二日 熱河承德に入り市況調査。

▲二十三日 奉天に入り市況調査。

▲二十四日 商工會議所、府立貿易館奉天分館を訪問、市況の調査。

▲二十五日 車中。

▲二十六日 京城着。

▲二十七日 京城視察。午後四時京城發。

▲二十八日 午後六時過ぎ大阪歸着。

天津市場

北支の何れの土地に行つて見ても、戦後景氣と云ふものか、内地の一攫千金組と一旗組と視察團とでゴツタ返しをしてゐるので、自然そこに生ずる現象は食ふもの、泊るもの、新に工場建設新市場開拓此の三つを外にしては談じられぬ状態であります。その間にプロカーの跳梁などあり、悲喜交々堅實なる事業家も新政權の方針決定に到らぬ爲め、色々苦心をしてゐる様子であります。

天津は北寧津浦兩線並に運河に依り奥地商取引の中心地であり、奥地の恢復を俟つて始めて諸種の貿易が可能となつて来るが、何と言つても目下は運輸の不能と奥地農耕地の不振で余り期待は出来ぬやうで、只、根本的問題として衣と食のみが先決且つ重要視されてゐるのは、事變直後としては當然のことであり、

従つて北支の活況は云ひ換へれば衣と食を中心としたものであり(現況)、それに附随して奥地日用物資の缺乏から之等が相當活潑な動きを見せてゐるものゝ、前述した如く運輸の方法に欠くる處があつて十分な期待が得られない。然し日本居留民の消費の方は、軍をその最大級と見て相當吐けてゐることも事實であります。

之等の動きが天津中樞として動いてゐるのでありますから、人の動きと共に刮目に價するものがあります。天津の背後地は御承知の通り北支五省を控へ、可成り廣大なものであります。北支進出と云ふ事は取りも直さず此處に本據を置くか、乃至は此處が足場となるだらうことは云ふ迄もなく、且つ北支經濟の中心は依然として此處に置かれる譯で、商習慣の不便を忍んで奥地に足を踏み入れるより手つ取り早い譯であります。

然し將來性と商品種別其他奥地進出を名指す方々に攝りては、よく奥地の商習慣、奥地向き商品の選擇等に依りドシ／＼進出せらるゝも可能であるが、先づ天津を中心として此處を足場とせらるゝ事が安全且つ手つ取り早い方法と信じます。

河北、山西、山東、察南所謂北支五省の門戸として、物資移入集散の中心としての天津は將來性から見て、確實に進展する處を疑はない。即ち、塘沽沖は億余の經費を以て埋立て一大築港の計劃が豫定され、此處より直ちに汽車を以て運搬天津に通ずることの方針と承りましたので、北京が新政府の中樞となる事實と相關聯して、殊に吾々は此處に眼をつける重要性を考へるのであります。天津の強味は何と云つても、四通八達した鐵路と水運に在り、物資の配給に極めて便利で且つ水運利用が比較的奥地へ物資移入に低廉であることは言ふを俟たず、青島經由の夫れに比すべきもないと信じます。

北支中支の政治體形が分立の形になれば、自然相當の影響があるが目下新政府の首府は北京に決定せられた爲め、此處に天津の意義は益々重要性を加へて、天津の邦品は事變前非常に壓迫を加へられたことが急激に立場を異にし、邦品の進出は他の諸國に比し有利となつた爲め、今後の活躍は目醒しいものがあらう。鐵道は滿鐵へ委嘱せられ總て日本一色に塗り潰されて来たことは、進出に拍車を加へる。殊に日本人進出の阻害となつた各國阻害問題(事變中皇軍の不便を忍んだのは周知の事であるが)も國際上厄介な問題を起さず、本邦貿易の進出に日本資本の充實に依り外國品は漸次影を潜め、諸外國商人の天津居住の意義を失せしめ、自然時間的問題として之等も解決するに至るだらうことを思ふのであります。

地域制、都市計劃法の施行がないから地域制はまだ敷かれてゐないが、白河に面した工業地帯は事變前に比べ地價も三倍位に躍進し、之にブローカーの跳梁もあつて賑はしい活況を呼んでゐる。建築に對して大阪から一流の人々が腰を据えて掛かつてゐるが、材木は福建、滿洲、朝鮮より仰ぐため、運搬の不自由で思ふやうに行かない。コンクリートも甚だ高價に付く、安いのは土地に適合した土と石灰と混ぜた土造りで、雨の少い土地柄コンクリート同様の効果をもつて作られるが、煉瓦は内地ものに比し著しく粗雑で、質も悪い様子であります。

北 京

北京は新政府首都として活況を見せ殊に事變後は日本商店街方面の躍進物凄く、此處が中心の觀を爲してゐるが、外城内の支那商店街も依然相當の活況はある。事變後各都市共急激な人口増加を來し、北京は一萬人、天津も二萬五千人、張家口二千人等々と傳へられてゐるが、この數字に據る處はどの程度までが正確かは疑問であるが、要するに急激な増加を來してゐることは事實で、此の増加に伴ふ物資の需要は必然的に起り、將來日本進出の便を得る時を想

像する時、恐しい購買力が生ずることも想像される處である。目下の處商賣は、日本商店は日本人にと云ふ傾向であるが、新政權の確立後漸を追つて支那商人の購買力も増加し、支那商人への取引を想像されるが、目下は寧ろ土産品諸種に互り支那人へ渡す金も相當に上るのも事實である。金を貯めること、商賣の上手なことは支那人の通有性で、之により日貨購買力をドシ／＼煽る傾向になれば、日本商品の進出上意義がある。

此處で軍司令部へ慰問、小園江高級副官其他要人並に信義洋行の越智氏御親子にお會ひし、意義ある北支開發の御意見を承つたことは、本視察の効果を遺憾なからしめたもので感謝に堪えない。

北京の規模は誠に壯麗華大で、觀光北京の名に背かず、柳楊芽に出づる光景到る處一幅の繪である。恐らく今後一度は見て置け北京の語が生じ杖を引く人の多いことを想像される。

石 家 莊

途中新樂縣砂河に砂鐵の流れてゐるのを見た。奥地に鐵のあることを雄辯に物語つてゐる。石家莊では二瓶主計少將閣下にお會ひし、

「よく来た、遠いところを御苦勞だつた——。」

閣下のお話

將來太原は山西商業の中心地として有望で、石家莊は山西へ送る物資の集散地として殷盛を來す。此處より少し南へ行けば濟南、或は上海方面の經濟が重きをなすが、此處は天津商人の活躍舞台である。太原及び陽泉は物資の多い所で、石炭は無盡藏、然かも優良品である。陽泉の金も相當有望性を持つ資源の寶庫は實に山西で、石家莊の將來は

洋々たるものがある。當地で經營進出して欲しいものは、電氣事業と運搬業で太原資源の開發と相俟ち、天津へ搬出するトラック並に自動車營業は將來性を有し且つ急務である——。

柳原主計少尉外本市出身者を慰問し會議所として御慰問、柳原氏並に堀井公大紡所長の御案内で市内商況並に紡績工場を視察。此處に綿花、獸皮の多量の集散せるを見た。

保 定

皇軍激戦の地である。邦人の進出は多く旅館と飲食店であつた。

張 家 口

蒙疆聯合政府の所在地で察内自治政府(張家口)、大同蒙古の三都を聯合した政府で産業委員會に於て意見を聽き土谷鐵紡工場長の御好意により商況を詳細に視察し得た。蒙古奥地の人口は約六百萬、その内購買力を有するものは十分の二、後は今後の開發により生ずる處で曩に大阪の東亞見本市の成績に依れば、

人絹 砂糖 海産物(昆布) 罐詰 陶器 無地綿布 洗濯石鹼 化粧品 賣藥 金物家庭用 實用ナイフ(大形) 匙 錠前 洗面器 何れも安物

之等は蒙古人の最も要求するものである。殊に各大商人の各店の希望、在庫品なども土谷氏の御好意で調査した處によるとリヤカールの要望が強かつた。

自轉車は卸賣三十六圓、小賣四十圓(附屬品一切付)で卸賣は十五六店で年額一萬二、三千圓程度然かもストック品が相當あつた。安い物であつたからマークは違つてゐても堺ものであることは立證せられた。

此處で絨氈の製造を見た。一尺角一圓五、六十錢、家庭工業の域を脱せぬものであつた。

硝子製品、陶器は色々の色彩、形を要求せられてゐるが品不足で十分のものが無く弱つてゐると云ふ話であつた。蒙古民との商賣は城外に於て物々交換が依然として行はれてゐる。張家口商人との取引は決濟六ヶ月で品物をユツクリと見て賣れ行きにより三ヶ月目に一部を支拂ひ、殘額を六ヶ月目に渡すと云ふユツクリした商賣で、現金買ひは餘程安いものでないと取りつかず、見本商賣は全然利かぬところで天津華商を通じて取引が行はれてゐる。故に奥地緩遠・大同、包頭方面とも聯絡して天津で仕入れるのであるが、奥地開拓商習慣の是正は一日も急を要するものがあります。

熱河承德

清朝離宮と觀光土地と云ふだけで北京を見た眼には、蒙古風俗と異つた感懐はあるが北京の規模の巨大さから見て小さい。

奉天

軍需品製造工場と北支進出、滿洲新政權の基礎強化により活況を呈してゐるが、物資の運輸方法が付かず之が缺乏で各方面共困難對策を協議してゐる。

京城

北支行き貨物の關門として今事變非常なる活潑な動きを見た。之に全力を擧げてゐる。仁川港の航路を利用し、天津秦皇島行きで將來への進出の爲め、非常な努力と活動が續けられてゐた。

結論

輸送の解決が出来たなら邦品進出の市場として重要な地であるが、先づ商取引をせんとするものには、奥地商人の漸次日本商習慣に慣れさせる迄は天津を根據地として掛ければ先づ失敗は無い。それと同時に時期を見る眼を養ひ欲する品物、欲する時期、安い物と云ふことに心掛けてゐれば商取引の目的は達成せられる。工業地としての將來性は支那物資を原料とする諸工業で、天津は恰好の地である。機業の濟南青島と相俟ち、漸次天津の工業は活況となる事は事實である。が

此處に現下の方針の決定が重大意義を持ち、統制經濟の立脚點が本邦品進出を阻害せぬか——と云ふことに杞憂もある。統制經濟が是か、自由主義經濟が是か、之は識者に一任し、要は日滿支を一体とした大乗的見地に立ち、原料を支那に仰ぎ加工輸出を日本に移す襟度こそ重要な爲政で、この方針が立派に立てば尊い血と數億の國貨を費した平和工作が効果を生じるものであることと言ふ迄も無い。

本邦品の締め出しを喰はぬ——政策、之は内地何れの方面よりも要望せられてゐる處であり、且つ貿易商方面の熱望する處であります。要するに商業の進出は「先手を打つ」と云ふ普通言はれる商道の理が嚴として存在することは言ふまでもありません。

本所辻本前會頭に商賣成功の秘訣を承つたことがあります。その時辻本氏は「一目勝つこと」と教へられました。洵に名言だと信じてゐます。北支進出の心構へは實にこの一言で盡すことありと思ひます。危地に入らねば虎兇を得ず、先手先手と行くことは堺商人の傳統の精神です。他を制して一目づ、の勝ちを得ることが、此の際最も先決の要諦と存じます。故に百聞は一見に如かず、視察も早く着手も早く一日でも早く現地に進出し開拓し、地の利人の利商賣利を得て確實な市場開拓に心掛けられるやう、本市各位の御着目と御發奮を切望する次第であります。

尙北支資源は大体御承知の如く、
綿花、畜産、農産物、森林、羊毛、塩、粘土、長石、硫黄、石綿、石油、金、鐵礦、土法鐵礦、石炭
等であります。之を原料としての工業化は、各位の計劃に俟ちたいものであります。

詳 説

支那事變を機軸とする天津の膨張はそれこそすさまじいものであつた。それは「躍進」とか「發展」と
かいふ言葉があらはす生やさしいものでなく、それはたとへば火事場に見られるやうな一つの混沌
であり、雜鬧であつた。街を歩けば人と人がぶつかつて火花でも散らさうな一九月、十一月と無軌道的な發展
を遂げたわが天津も新春をむかへ北支明化の實があがつてゆくとともに一應の落ちつきを見せその本來の經濟都市
としての面目にむかつて、否日滿支を結ぶ新しいキイ・ポイントとして脈々として力強き經濟活動を起すに至つた。

まづ第一は邦人人口の膨張である、事變前一萬程度であつたものが最近では二萬五千と飛躍をとけてゐる。殊に
京津地方が安定するとともに内地から家族を呼び寄せるとともに、事變につきもの、「一旗組」が陸續と入つてく
るため宿屋といふ宿屋、貸家といふ貸家は全部ふさがつてしまつた、早い話が宿屋の如き雨後の菊の如く出来る、
出来る途に今日では四十軒と事變前の六倍にのぼる増加を見せてゐる、こんな調子でふえられてはこれから將來
が案じられると「これ以上宿屋の許可をしないやうに」と遂に宿屋業組合から領事館警察の方へ請願するといつた

形である。

人口の増加は當然小學校の狹隘となつてあらはれた、小學兒童だけでも事變前に比較すれば今日すでに約五百名の
増加を見たといふ。従つて取敢ず第一小學校で四學級第二小學校で五學級の増加が新學年度から考慮されてゐるが、
いづれ邦人密集地域には新しく小學校を設置することになるのではないかと見られてゐる。

事變景氣を裏から赤く彩る花街のの繁昌も亦見逃してはならないだらう、花街といへば從來曙街に限られてゐたも
のが事變後は北旭街と東站、總站到ネオンの街が出来上つた、忽然と花街が出現したのである。
北旭街は料理屋三十軒、藝妓五十、酌婦八十二、東站、總站は料理屋五十、藝妓十七、酌婦百十一といふ繁昌ぶり
を見せてゐる、曙街もこれにはまけてはならじと料理屋は事變前の十三軒が十四軒と僅か一軒の増加だが藝妓の数は
七十八名が百七十一名と倍以上に増加してゐる、カフェーは十八軒であつたものが四十軒となり女給もこれに伴つて
九十名であつたものがいまでは四百名といふ状態、まことにさかんなりといはねばならない。

觀光天津もまた新しく登場してきた、天津航路は近海郵船でも大阪商船でも増船計劃おさ／＼おこたりないが、お
そらく事變が一應の安定を見れば戦跡視察をかねて我國と併前輔車の關係にたつ北支見學の訪問客が殺到すること
あらう、すでに天津では遊覽バス・ガイドなどの設置が考究されてゐるジャパン・ツーリストビュローの北支への
よびかけと相俟つて觀光天津は楊柳の萌え出す春とともに颯爽とデビューすることであらう。

この間の各機關、滿鐵などの北京移轉は天津にぼつかりと穴があいたやうなさびしきを感じさせた。しかしこれでもつて天津のもつ經濟的優位性は毫も傷つけられるものではない、すでに紡績工場は天津に集中し公大廠(第六、七)裕豐紡、天津紡はそれ〴〵七萬鍾、三萬四千鍾、五萬鍾、六萬七千鍾の紡機を据えて北支に在華紡の威力をバラ撒いてゐるが更に今や、全滅の憂目にあつた青島濟南の分をも背負つて更生北支に綿糸か綿布を旺盛に供給しようといふもフル運轉を始め、今後こゝに簇生すべき國光紡、岸紡、福島紡、吳羽紡等々の工場とともに在華紡の一大核心を結成せんとする形にある、過日發表の新關稅は日支相互の物資の出入に多大の圓滑さを加へるものとして歓迎されてゐるがこの新關稅實施と冀東特殊貿易の廢止こそは天津今後の發展を豫約する以外の何物でもない、更に十年に一億七千六百萬海關兩、十一年に一億九千萬海關兩とそれ〴〵全支總貿易商の一一%以上を占めて來た天津港今後の發展を期待させるものに塘沽の築港、白河の改修があることを忘れてはならぬ。この完成された天津めざして諸多の資本、商品が流れ込む光景は北支隨一の偉觀でなければならぬ。早くも天津にはトヨタ自動車資本が進出を開始したがかくして天津には今後どれほど多くの煙突が林立して經濟都市としての概觀を形成することか、たゞお役所の北京移轉は水商賣の連中に若干の影響を與へたやうであるが、これも近き將來内地からの渡航制限が緩やかとなれば潮の如き勢ひで殺到する邦人のために昔日以上の繁榮を見ることは明らかであり、いまや天津は青春の情熱を沸ぎらせつゝ希望にもえる第一歩を踏み出さんとしてゐるのだ。

★ ★ ★

北京

北支の政治、經濟が漸く體制を整へてくるとともに、北京への人口集中も頓に加はつたが、觀光都市、文化都市としての北京はさらに經濟都市としてあるひは政治的には新政府の首都としての北京

となつてその内容も外觀も整へなければならぬ必要に迫られてきた、そこで北京の都市計劃が根幹だが、そのまづ第一原則は觀光都市歴史の都北京をそのまゝに生かすために、現状の姿を變更させないこと、そのためにすでに規定された街頭裝飾にも市街建築にも貴重な法規を立て、舊態の破壊に制限を加へようとするのである、だから現在の北京建築に特異な色彩を添へる高層建築とか、異様な建設計劃は今後絶対に許可されないであらう。第二に商店街、官廳街、住宅街を如何なる地區に配分するか、あるひは日本人街をどうするか、それも根本問題だが、その具體案を決定するために市政府は來月早々各業界代表者を招致して意見を徵することになつてゐる、その結果は日本人の集團地區も決定することになるかも知れぬ。第三は都市計劃に必要な條件としての上下水道だが孫子河から引く上水道は現に千八百トンの給水をしてゐるとはいへ大部分が漏水となりその整備を急がねばならぬこととして下水道も光緒年間から立派な設備こそあるが、これも大部分は埋没してをり、再組織を立てなければならぬこととして第四は交通計劃として電車、バスをどうするか、水道、ガスとともに公營か、しからずんば統制あるものにしたのが原則で私營の一部バスも近くは統制されるであらう。第五に遊覽地としての公園、墓地の問題も殘されるが墓地は集團地區に設定するの困難を顧みて城外に舊態を保存する程度におよばず公園は名だたる遊覽都市の北京には必要ではなさうだ、けれども人口稠密地帯にはある程度の小公園が必要だらうとされてゐる—かうした條件の下に近代都市北京の建設は着々と進捗してゐる、しかし、その原則はすべてに北京はいつまでも觀光都市であり、政治の都であり、文化の都としてあり、工業都市としての建設をなるべく避けたいとするのが一つの着眼とされてゐるのだ。

★ ★ ★

石家莊

躍進を競ふ北支の都市としてこん度は京漢線石家莊が登場した、地圖の上で見ても河北省西南方にある北緯三部度五分、京漢、正太兩線の交叉點に位し、しかも西は太原に通ずる山西への門戸をな

してゐるといふナカノ、重要な土地だ、だからこそ逸早く眼をつけた邦人商人は雪崩のごとく押しかけ現在では三千五百餘名の同胞が踏み止まつてゐる、とに角この地には製粉、紡績、車輛などの大工場があり、僅か三十年の歴史しか持つてゐない都市としては見るからに活気に満ち満ちた都市だ、驛前の廣場には山のやうな材木が積み上げられてゐるそしてその周囲には幾百の苦力の群がある、一步市内に足を踏み入れればどこもかしこも身動きも出来ない程の雑踏で新興都市の面目が躍如としてゐる、北支の都市としては珍しくも城壁がないので在來の支那人商店街に麗々しく日本文字で看板を書き連ねられた商店が櫛比してゐて、日支親善共存共榮の本當の姿を見せつけられる。

日本人會の調査によれば現在飲食店一三五軒、料理屋五三軒、カフェー一〇〇軒、旅館四〇軒でその他主なるものとしては醫師一〇名のほか時計屋、床屋、洗濯屋、菓子屋まで揃つてゐて邦人の生活には殆ど不自由がない、この石家荘は有名な金持ちの街として知られるところだけに豪莊な門構への家も少くないが、有難いことには早くも電信、電話の便もあり、それに極く家賃が安いことで、五、六圓から十圓くらゐも出せば相當の貸家があるといふ、こんな好條件に恵まれてゐるので昨今は毎日少くも百名以上の在住希望者が押しかけてゐる状態で世話をやく日本人會の多忙といつたら想像以上だ。

一方治安の状況を見ても石家荘市内には殆どこの心配がない。いづれにしても邦人といはず、地方人といはず、滿洲事變當時と違つて自衛意識が強烈で、應急の防備が出来るやうにして集るさうだ。

現在石家荘市内は日本の兵隊さんと警察隊とが協力して警備に當つてゐるが宜接班の活躍によつて少年隊を組織して着々防備の教育を授けてゐる。將來十分發展性のあることを見越した日本人會では日本人小學校建築の案を樹て、軍部や外務省に向つて申請中だが、取敢ず來月一日から支那人小學校の一部を借り受けて百名に近い邦人子弟の教育をはじめることになつてゐる。

保定

京漢線保定の躍進の姿にはまことに他地方にその例を見ないほどの活氣を帯びてゐる。事變前人口八萬、戸數一萬五千五百といはれたこの街は京漢線に沿ふ主要都市で棉、小麥、粟、高粱などの農産物の集散地として知られるほか、齒科大學、農科大學、師範學校、工藝學校などの所在地でもあり、畢竟教育の中心地として有名な地だ、搖ぎなき警備の重任を果してゐるわが日本軍に信頼して續々歸還した避難民は、すでに全人口の九分程度には達してゐるだらうといはれるほどだ、従つて日本人の出入も夥しく現在では一千二三百人に達してゐる、これらの日本商人は主として城外に店舗を張つて主として接客業を営んでゐるが、その一例を舉げてみても

飲食店、カフェー 四〇軒、旅館 一三軒、料理店 一六軒

などを始め雜貨店、理髮店などが所狭いまでに立ちならんでゐるどの店を見ても活潑な繁昌ぶりを示してゐる、これに呼應して城内支那商店街もすでに七分通り開店し、残る三分も着々復舊工作を急いでゐる状態である。

電燈は勿論とまつてゐるが、この一日から市民のうちに待望久しかつた電話も通じるやうになつた一方交通方面からいつても北京、石家荘方面にはいづれも一日二回づ、の定期の汽車があり、また最近では天津、保定間の船便、北京、保定間の乗合バスの通過などで一層運送力が増大してゐる。それが爲最近では、棉花、棉質、雜穀類の出廻りは旺んで、内鮮方面から殺到して來る視察團も京漢線第一の有望地で邦人の移住地として白羽の矢を立て、行く状態である。ミに角目下保定に足をとめてゐる邦人の多くは保定を墳墓の地と決め堅い決心をもつて緊張した毎日を送り迎へてゐる。——(寫眞カットは張家口物々交換所)——

(昭和十三年三月三十日稿)

昭和十三年四月二十五日印刷
昭和十三年五月一日發行

【非賣品】

發行人 堺市中之町一六番地
發行所 堺商工會議所

發行人 高澤正直
堺市宿屋町二〇番地ノ一

印刷人 谷村良三
堺市寺地町二三番地

印刷所 谷村昭文堂
堺市中之町四番地

終

